
第2次千葉県生涯大学校マスタープラン

千葉県健康福祉部

高齢者福祉課

平成30年3月

■ 目 次

I.	第2次千葉県生涯大学校マスタープランの策定	1
1.	第2次マスタープランの策定の趣旨	1
2.	マスタープランの性格と位置付け	1
3.	第2次マスタープランの運用	2
II.	生涯大学校のあり方	3
1.	生涯大学校の存在意義と果たすべき役割	3
(1)	“生きがい・健康・仲間づくり”を支援	3
(2)	地域活動の担い手の育成	3
(3)	市町村等と連携・役割分担した学習・活動の場の創出	5
(4)	民間事業者と役割分担した学習・活動の場の創出	5
2.	地域における支援の対象となる高齢者	6
(1)	地域活動に興味のある高齢者	6
(2)	地域活動に意欲的な高齢者	6
(3)	仲間づくりをきっかけに地域活動を行う高齢者	7
3.	学習テーマの3本柱	8
(1)	地域活動に役立つ知識と技能の習得	8
(2)	地域活動を実践的に学ぶ体験学習	9
(3)	仲間とともに活動するノウハウの習得	9
4.	設置内容の一部見直し	10
(1)	修業年限及びコースの見直し	10
(2)	定員の再編成について	13
(3)	授業料の見直しについて	15
(4)	入学年齢について	15
5.	大学校の運営体制の強化	17
(1)	卒業生の組織化とコーディネーターの役割強化	17
(2)	市町村等との連携強化	18
(3)	大学等教育機関との連携	19
(4)	資格取得の支援	20
(5)	地域との交流の促進	22
(6)	その他運営体制の強化	23
6.	マスタープランの検証・検討	25
	参考:各学部の学習内容(案)	26
	参考:千葉県生涯大学校イメージ図	27

1. 第2次千葉県生涯大学校マスタープランの策定

1. 第2次マスタープランの策定の趣旨

千葉県生涯大学校は、昭和50年の開校以来、高齢者等の生きがいづくり、仲間づくりの場としての役割を担っており、これまでに4万人を超える卒業生を輩出してきました。その後、高齢化の急速な進展等を受け、平成24年3月に「千葉県生涯大学校マスタープラン」（平成24年度～28年度）を策定し、高齢者が地域活動の担い手として活躍できるよう、修業年限や学科等の見直しを図るとともに、地域活動につながる学習内容としたところです。

また、介護保険制度の見直しに伴い、高齢者自身が健康を維持しながら、元気で生き生きと地域で活躍していくことが求められてきたことを受け、平成29年1月にマスタープランを一部改訂（平成29年度～30年度）し、地域での活躍につながる実践的な学習内容の充実や、健康・生活学部への名称変更などの見直しを行ったところです。

この間、生涯大学校への入学をきっかけに、地域活動意欲が醸成され、卒業後または在学中から地域活動に参加する方が大幅に増加するなど、運用効果が着実に表れてきました。

今後、団塊の世代が75歳以上となる平成37年には、本県では「約3人に1人」が高齢者と、更なる高齢化が見込まれており、元気な高齢者の方々に地域社会で役割と生きがいを持って社会参加をしていただくことがますます求められております。

このような中、本県でも一部の競技が開催される「2020年東京オリンピック・パラリンピック」においても、高齢者の方々の経験を活かした本県の魅力発信や質の高いおもてなしの提供などが期待されています。

本「第2次千葉県生涯大学校マスタープラン」では、これまでの運営の効果を十分に活かしながら、今後、生涯大学校の果たすべき役割や見直しの方向性などについて明らかにし、生涯大学校が県内の高齢者にとって、さらに有意義な学びと実践の場になるとともに、学習成果を活かした地域活動に参加することの生きがいの創出、充実を目指します。

2. マスタープランの性格と位置付け





千葉県生涯大学校マスタープランは、生涯大学校の目指すべき姿、現状と課題、カリキュラム、連携方法など、今後の運営に当たって必要とされる内容となっています。

生涯大学校は条例で設置が定められた施設ですが、その運営に関しては、規則を除き、マスタープランを最上位計画として位置付けるものです。

3. 第2次マスタープランの運用

第2次千葉県生涯大学校マスタープランの計画期間は、平成31年度から平成33年度までの3年間とし、したがって、第2次マスタープランに基づく学校運営は、平成31年度から平成33年度に入学する学生が適用になります。

◆マスタープランの推進（目安）

	平成 30 年	31 年	32 年	33 年
計 画 期 間		 第2次マスタープラン		
	 一部改訂・延長版			
効 果 検 証 ・ 見 直 し	 効果検証			 見直しの検討

II. 生涯大学校のあり方

1. 生涯大学校の存在意義と果たすべき役割

(1) “生きがい・健康・仲間づくり”を支援

【現状と課題】

長寿化に伴う健康寿命の延びや、価値観・ニーズの多様化に伴い、趣味や健康づくり、社会活動に生きがいを求める高齢者が増加傾向にあります。

社会活動を行うにあたっては、担い手となる高齢者自身がいつまでも健康で生き生きと暮らしていくことが大切であり、同時に、社会参加を通じて、自らの介護予防につながる効果も期待されています。

心身ともに健康で生きがいのある暮らしの基礎となる「健康づくり」の充実や、仲間とともに楽しみながら学ぶことは、地域活動への参加意欲を高め、健康の維持・増進という効果も期待できます。

【今後の方向性】

これらを踏まえ、特に生涯大学校の果たすべき役割としては、時代の変化や高齢者等の価値観の多様化、社会環境の変化に対応した「生きがい・健康・仲間づくり」の場と機会の提供、そして地域に開かれた集いの場としての目標を明確に掲げ、学校運営を行っていくこととします。

(2) 地域活動の担い手の育成

【現状と課題】

より多くの方が、会社や組織で長年培った多様な経験と知識を、地域活動に生かすことができれば、豊かな地域社会の実現に向けて大きな力となってくることは間違いありません。

現在、元気な高齢者等が支援の必要な高齢者を「支える側」として活躍することがより一層求められています。特に、都市部を中心として、高齢者のみの世帯（独居・夫婦）が増加しており、日常生活における「支え合い」はとても重要となっています。

また、地域の子どもたちを事故や犯罪から守り、子どもたちが安心して過ごせるよう、地域における子どもの見守りや居場所づくりが大変重要となっています。

こうした状況から、高齢者の社会貢献が期待されています。

【今後の方向性】

そのため、生涯大学校では、高齢者等の多様な知識や経験、ノウハウ、技術などを地域づくりや地域経済の活性化に生かせるような学習の場と機会を提供し、引き続き、地域のために貢献できる人材（地域活動の担い手）の育成を目指していきます。

＜地域活動で期待される人材の例＞

活動概要	想定される人材
高齢者の日常生活支援	ふれあいサロンの運営や見守り活動など、地域に根ざし、在宅援護を必要とする高齢者に対する積極的な支援活動を行う人材
子どもの日常生活支援	子ども防犯ボランティアへの参加や防犯教室の開催、登下校時の見守り、ファミリーサポート会員、子ども食堂の開設・応援、放課後児童クラブでの補助など子どもに対する積極的な支援活動を行う人材
景観整備・樹木等の管理	公園や学校、市街地等の樹木の剪定や花壇の整備など、街の景観整備を行う技術を有し、率先して活躍できる人材
介護・福祉施設、老人ホーム等でのボランティア	介護・福祉施設や老人ホームにおいて、高齢者の話を聴いたり、歌、陶芸教室などのレクリエーションを行ったり、また、車イスの清掃を行うなど、施設利用者への積極的な支援活動を行う人材
地域の歴史、文化等の伝承	市町村イベントや公民館などの場や機会をとらえ、子どもたち等に対して、地域の文化や伝統芸能、歴史などを伝え、地域文化の保存に努める人材
民生委員・児童委員や自治会役員	民生委員として、市町村の福祉事務所等と連携して地域福祉を推進し、あるいは自治会の役員として、自治会の活動を牽引するリーダー的な人材
地域の活性化等	地域独自の祭りや催事の企画、運営あるいは観光ボランティアなどの活動を通して、共助による地域づくり、活性化を図るためのプロデューサーとして活躍できる人材

※ 現在、生涯大学校の在校生、卒業生は、上記のほか様々な分野で活躍しています。

(3) 市町村等と連携・役割分担した学習・活動の場の創出

【現状と課題】

生涯学習については、多くの市町村の公民館活動等において学習の場と機会が設けられており、それらを発展させ、市民大学のような形態で展開している市町村も複数みられます。しかしながら、その実施状況を地域別に見ると、千葉地域や東葛飾地域を除いては、あまり充実していないのが現状です。

また、高齢者向け講座を開設している市町村の多くは、余暇の充実や健康づくりを目的とした講座を月1～2回の頻度で実施しているに留まっており、高齢者専用大学を設置してボランティア人材育成のためのカリキュラムを実施している市町村は少数です。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、生涯大学校では、「地域活動の担い手の育成」に重点を置き、高度で実践的な学習内容とすることで、市町村との役割分担を図ります。あわせて、学んだことを地域で生かす場と機会の創出においては、市町村や市町村社会福祉協議会のボランティアセンター等と連携強化を図り、より効果的な学習・活動の場を提供していきます。

(4) 民間事業者と役割分担した学習・活動の場の創出

【現状と課題】

経済センサス基礎調査によると、民間事業者が行うカルチャーセンター等や学習支援業の約8割が京葉学園と東葛飾学園の通学圏に集中しており、依然として、民間の学習の場がない地域が多くあることから、県内全域に等しく学習の場があるとは言えない状況です。また、民間事業者で展開しているものの多くは体験講座的な位置付けとなっています。

《その他の教育、学習支援業の事業所数》

学園区域	京葉	東葛飾	東総	外房	南房	合計
事業所数	2,307	2,742	297	422	446	6,214
構成比	37.1%	44.1%	4.8%	6.8%	7.2%	100.0%

資料：平成26年経済センサス基礎調査（総務省）

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、引き続き、県内5地域で学習の場を提供していきます。また、すべての学生が自らの知識や経験を活かして社会参加できるよう、学習内容の充実を図ります。

2. 地域における支援の対象となる高齢者

(1) 地域活動に興味のある高齢者

【現状と課題】

本県は高度成長期に人口が大幅に増加したため、団塊の世代の割合が高く、様々な知識と経験を有する人材が豊富であり、「地域活動の担い手の育成」という点では恵まれた地域といえます。

しかし、このような人たちが、地域活動等において知識や経験を生かしたいと思っても、情報不足やきっかけがつかめないなどの理由から、実現できずにいる人も多くみられます。

【今後の方向性】

生涯大学校では、このように貴重な人材が、容易に地域に溶け込み、知識と経験を十分に生かして活動するためのカリキュラムを整え、生きがいを持って健康で元気に活動できるよう支援していきます。

(2) 地域活動に意欲的な高齢者

【現状と課題】

「社会意識に関する世論調査」(平成27年度)によると、60～69歳の高齢者のうち、何か社会のために役に立ちたいと思っている人は、男性で69.4%、女性で67.8%と男女問わず7割近くに達しています。

社会貢献の内容を男女別にみると、男性では「町内会などの地域活動」が最も多く、続いて「自主防災活動・災害援助活動」が、また、女性では、「社会福祉に関する活動」が最も多く、続いて「町内会などの地域活動」の順となっています。

また、「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成25年)によると、社会貢献活動に参加して良かったこととして、「新しい友人ができた(48.8%)」、「生活に充実感ができた(46%)」、「健康や体力に自信がついた(44.4%)」など、高い効果があったことが伺えます。

しかしながら、地域で活動するために必要な情報やノウハウを得るために十分な学習環境が整っている市町村は少数であり、生涯大学校には、地域活動を行うために、より「実践的」な学習機会の提供が求められています。

【今後の方向性】

生涯大学校では、健康で元気に地域貢献できる人材を育成するため、広く地域課題をとらえ、介護予防や地域での支え合いの大切さや必要性などについて学び、課題解決のために具体的に活動を企画・実践できる学習の場を提供していきます。

これまで地域活動に参加した経験のない高齢者等に加えて、地域活動を既実践している高齢者等の学習の場としても機能させていきます。

また、地域の一員として地域活動に参加するだけでなく、地元自治会や老人クラブをはじめ、社会福祉協議会等とも連携し、地域の人々と協力しながら、より効果的で幅広い活動に発展させるリーダーの養成も視野に入れていきます。

(3) 仲間づくりをきっかけに地域活動を行う高齢者

【現状と課題】

生涯大学校に入学する高齢者等の中には、仲間づくりを目的としている方が数多くいます。また、入学生の約半数は地域活動未経験者です。

こうした方が、生涯大学校での仲間づくりをきっかけに地域活動を行うことも重要と考えます。

【今後の方向性】

生涯大学校では、仲間とともに楽しんで行える演習や地域での実践活動を通して、在学中や卒業後に、よりスムーズに地域活動を行っていただけるよう支援していきます。

また、地域活動の実施には、ともに活動する仲間が欠かせないことから、学部の枠を超えて、より多くの仲間と知り合えるように、クラブ活動への参加や、オープンキャンパスの実施、卒業生の組織化などについて推進していきます。

3. 学習テーマの3本柱

(1) 地域活動に役立つ知識と技能の習得

【現状と課題】

生涯大学校への入学時は、地域活動の経験がない人が約半数を占めていますが、卒業後は、多くの高齢者等が地域活動を実践しています。地域活動への参加について、生涯大学校の卒業生からは、「学校へ通い、学習していくうちに自然と地域活動への意欲が湧き、卒業後に活動を始めた」という声が多数聞かれます。今後さらに地域活動に参加していただくための学習環境の充実が求められています。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、引き続き、全ての学生が地域活動に役立つ学習となるよう、あわせてカリキュラムの充実を図ります。

また、地域活動に高いモチベーションを持つ学生が、卒業後すぐに活動を実践できるような知識や技能も習得できるようにします。

(2) 地域活動を実践的に学ぶ体験学習

【現状と課題】

地域活動に興味を持つ学生の多くは、実際の活動の場で経験したいというニーズを持っています。

地域活動を実際に行っている方から体験談を聴いたり、地域活動を実際に経験することは、地域活動を身近に感じ、参加意欲を高めるだけでなく、自分でも地域活動ができるという自信につながります。

なお、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることになり、本県でも一部の競技が開催される予定であることから、一人でも多くのボランティア人材が必要とされています。

【今後の方向性】

生涯大学校では、「地域活動の体験」を学習の柱に位置付け、市町村の生涯学習との役割分担を図ります。あわせて、地域での実践的な学習を多く取り入れることで、全ての学生がより多く地域活動を経験できるようにします。

また、健康づくりに資する講座を充実するとともに、郷土料理や地域の伝統技能、地域の歴史・文化など地域への理解を深める講座や、孤独死や少子化といった現代の身近な課題をテーマとした講座を設け、地域活動をより身近なものとなるようにします。

さらに、東京オリンピック・パラリンピックの開催も見据え、より多くの学生がボランティアとして参加できるようカリキュラムの充実を図ります。

なお、地域活動のスキルやノウハウを習得するために、現在、地域で活動している方を講師に招くなどして、地域に適した活動となるよう学習内容を充実します。

(3) 仲間とともに活動するノウハウの習得

【現状と課題】

地域社会において、各種団体や組織に属して地域活動を行った経験のない（少ない）人たちには、うまく地域に溶け込めないことが少なくありません。

特に、企業という地域と離れた組織で長く働いていた人たちが、退職後に地域に入っていくには、意識改革が必要と言われています。

こうしたことから、生涯大学校では、入学時から卒業時までグループ単位での活動を推進してきましたが、「交流が深められた」という声がある一方で、グループになじめなかった場合は退学につながるケースや、「グループ以外の人ともっと交流できたらよかった」という声もよく聞かれることから、より工夫していくことが求められています。

【今後の方向性】

今後は、演習や実習の活動単位となるグループ編成については、出身地域をはじめとし、より多くの仲間と交流できるよう、学園関係者の意見も参考としながらグループを定期的に再編成することとします。

また、職歴等にかかわらず、地域活動の楽しさや仲間との活動の大切さなどの理解促進に努め、卒業後に自然と地域に溶け込めるように配慮します。

4. 設置内容の一部見直し

(1) 修業年限及びコース名の見直し

- ◆ 造形学部園芸コースの修業年限を「1年間」から「2年間」に見直すとともに、「園芸コース」を「園芸まちづくりコース」に改称する。

① 健康・生活学部

【現状と課題】

生涯大学校への満足度を高め、より多くの方に学んでいただくためには、時代とニーズに沿ったカリキュラムとすることが必要不可欠です。

平成29年2月に地域活動学部（現 健康・生活学部）の1年生に対して行ったアンケートでは、「生涯大学校での学習に求めるもの」として、「健康に役立つ知識・実践」を回答する方が74.4%と最も多く、次いで、「ボランティアに役立つ知識の習得」が40.5%という結果となりました。

また、平成29年9月には、厚生労働省の人口推計で90歳以上の方の人口が初めて200万人を超えたと報じられました。健康上の問題がない状態で日常生活を送れる期間である「健康寿命」と平均寿命の間には、男性で約9年、女性で約13年の差があると言われています。

寝たきりにならず、いつまでも健康で生き生きと過ごすために、より一層「介護予防」への取り組みが求められています。

【今後の方向性】

学習ニーズや地域特性を踏まえ、特に、介護予防・日常生活支援総合事業の担い手の育成や、元気な高齢者が自らの健康を維持しながら、社会活動を行うことで自らの介護予防につなげる効果が期待できることから、京葉学園及び東葛飾学園においては、「健康福祉」と「社会生活」の2つのコースを設け、演習や実習を通して、それぞれの視点を重点的に学びます。

具体的には、「健康福祉」コースでは、認知症予防など介護予防の大切さや、日常生活の援助について学び、地域支え合いに活かします。

「社会生活」コースでは、環境や防災、災害時の共助などの地域課題を広くとらえ、課題解決の方法を探るとともに、自治会活動など社会生活を営んでいく上で基礎となる活動に活かします。

東総学園、外房学園、南房学園では、地域ニーズを踏まえ、「健康福祉」コースと「社会生活」コースの両方を兼ね備えた学習内容とします。

また、すべての学園において、2年次には、卒業後の活動が円滑に行えるよう、学生の希望に応じ、「保育」や「介護」、「災害」、「まちづくり」など施設等において分野別の実践活動を行い、学生同士及び様々な団体等とのネットワークを構築できるよう支援していきます。

② 造形学部

【現状と課題】

造形学部においては、公共施設における花壇や里山の整備、親子陶芸教室などを通じた世代間交流などが積極的に行われ、それぞれの技術を活かした地域活動の範囲が広がってきました。

また、園芸コースにおいては、高齢者宅の植木剪定や公園、道路等の花壇整備など、園芸の技術を活かした活動に対する地域からのニーズも高まってきました。

しかしながら、週1回／1年間の学びでは、知識・技術の習得が「広く、浅く」ならざるを得ず、また、植物の成長過程や異なる気象条件への対応を学ぶことができないため、卒業後に速やかに地域ニーズに応えられないという課題が生じてきました。

一方で、陶芸コースにおいては、施設の入所者や地域の子ども達を対象にした陶芸教室や作品のチャリティ販売など徐々に地域活動が広がりつつあり、更なる活躍の場の広がりが期待されています。

【今後の方向性】

造形学部では、自らの能力を生かし、創造的に生きていくための学習機会を提供するとともに地域活動に参加できる人材を養成することとします。

具体的には、園芸コースについては、施設や道路の花壇整備など地域における実習をカリキュラムに組み込み、指定管理者のノウハウを活かした体系的な学習環境を提供することで、街路樹や施設、公園の花壇管理といった街の景観整備や、地域の高齢者宅の庭木の剪定など、園芸の技術を活かした地域づくりに貢献できる人材を育成していきます。そのため、名称を「園芸まちづくりコース」に改称するとともに、修業年限を2年間に見直します。

また、陶芸コースについては、ユニバーサルデザインを取り入れるなど、陶芸の技術を活かしながら地域活動につながる学習内容への見直しや、陶芸の技術を活かした活躍の場の開拓を行っていきます。

③ 地域活動専攻科

【現状と課題】

市町村が生涯大学校に求める人材は、老人クラブ役員や、民生委員、介護予防・日常生活支援総合事業におけるサロン運営など、「地域活動のリーダーとなる人材の養成」が多くあり、自ら地域課題を発見し、その解決に向けた活動を実践できるリーダーを養成することが生涯大学校に強く求められています。

【今後の方向性】

京葉学園及び東葛飾学園に設置している「地域活動専攻科」では、ボランティア活動や地域イベント、講演会等を企画・実践すること、また、起業やリーダーとして様々な活動を牽引するために必要な知識やノウハウを学習します。

リーダーとして活躍できる人材を養成するという観点から、地域活動専攻科への入学は、健康・生活学部で2年間学習した卒業生又は市町村から推薦を受けた者に限定することとします。

(2) 定員の再編成について

- ◆ 学習効果が十分に得られるよう、クラスの適正規模や再入学者の状況も考慮し、1学年あたりの定員を園芸コースについては、350名に、また、陶芸コースについては180名に再編成する。
- ◆ 同一学部同一コースへの再入学は原則として行わないこととする。ただし、健康・生活学部において、学習内容の見直しが行われた場合など地域活動に寄与すると認められる場合は再入学を許可する。また、造形学部園芸コース及び陶芸コースで学んだことのある場合は、1回を限度に再入学を許可する。

《学部・学科ごとの定員一覧表》

学部・学科名		入学定員	総定員	修業年限
健康・生活学部		730	1,460	2
造形学部	園芸コース	630	630	1
	陶芸コース	250	250	1
地域活動専攻科		100	100	1
計		1,710	2,440	

学部・学科名		入学定員	総定員	修業年限
健康・生活学部		730	1,460	2
造形学部	園芸まちづくりコース	350	700	2
	陶芸コース	180	180	1
地域活動専攻科		100	100	1
計		1,360	2,440	

《学園ごとの定員一覧表》

学園名	(現行)			
	学部及び学科		修業年限	定員(1学年)
京葉	健康・生活学部		2年	210名
	造形学部	園芸コース	1年	210名
		陶芸コース		75名
	地域活動専攻科		1年	50名
東葛飾	健康・生活学部		2年	200名
	造形学部	陶芸コース	1年	75名
	地域活動専攻科		1年	50名
東葛飾(浅間台)	健康・生活学部		2年	100名
	造形学部	園芸コース	1年	210名
東総	健康・生活学部		2年	70名
	造形学部	園芸コース	1年	70名
		陶芸コース		25名
外房	健康・生活学部		2年	100名
	造形学部	園芸コース	1年	70名
		陶芸コース		50名
南房	健康・生活学部		2年	50名
	造形学部	園芸コース	1年	70名
		陶芸コース		25名

学園名	(改正後)			
	学部及び学科		修業年限	定員(1学年)
京葉	健康・生活学部		2年	210名
	造形学部	園芸まちづくりコース	2年	90名
		陶芸コース	1年	50名
	地域活動専攻科		1年	50名
東葛飾	健康・生活学部		2年	200名
	造形学部	陶芸コース	1年	55名
	地域活動専攻科		1年	50名
東葛飾(浅間台)	健康・生活学部		2年	100名
	造形学部	園芸まちづくりコース	2年	140名
東総	健康・生活学部		2年	70名
	造形学部	園芸まちづくりコース	2年	35名
		陶芸コース	1年	25名
外房	健康・生活学部		2年	100名
	造形学部	園芸まちづくりコース	2年	50名
		陶芸コース	1年	25名
南房	健康・生活学部		2年	50名
	造形学部	園芸まちづくりコース	2年	35名
		陶芸コース	1年	25名

【現状と課題】

生涯大学校の入学者の定員充足率は、平成25年度からのマスタープランによる運営以降、減少傾向となり、平成27年度には64%まで落ち込みましたが、地域活動学部（健康・生活学部）の学習内容等を見直しにより、平成29年度には入学定員に対する充足率が79%まで回復しています。

学園別では、東葛飾学園、東総学園、外房学園では平成29年度の入学定員充足率が88%～97%である一方で、京葉学園及び南房学園では、62%～71%という結果となっています。

特に京葉学園は充足率が低い状況が続いており、これは京葉学園の通学地域に、市町村が実施する市民大学等が充実していること、また、南房学園では、通学圏が広域であり、通学が困難であることも影響していると考えられます。

学部別に見ると、健康・生活学部（～28年度 地域活動学部）では、平成27年度が48%、平成28年度が64%、平成29年度83%と増加傾向にあり、学習要求を十分に汲んでいくことが大切です。

また、造形学部では、1クラスあたりの定員が多く学習効果が充分に行き渡らないといった点や、再入学者の割合が高いといった課題があります。

【今後の方向性】

定員充足率を高めるには、学習に対する満足度を高めるための環境整備が重要です。

そのため、学習効果が十分に得られるよう、クラスの適正規模や再入学者の状況も考慮し、1学年あたりの定員を園芸コースについては、350名に、また、陶芸コースについては、180名に再編成します。

また、今後も少子高齢化が進む中、広く県民に学習機会を提供し、より多くの卒業生に地域活動の担い手となっていただくことが重要であること、さらに、学んだ知識や技術を速やかに地域で役立てるといった観点を考慮し、同一学部同一コースへの再入学は原則として行わないこととします。

ただし、健康・生活学部において学習内容の見直しが行われた場合など地域活動に寄与すると認められる場合は再入学を許可することとします。

(3) 授業料の見直しについて

《コースごとの授業料》

学部・学科名		年間授業料	学部・学科名		年間授業料
健康・生活学部		15,400 円	健康・生活学部		16,100 円
造学 形部	園芸コース	27,700 円	造学 形部	園芸まちづくり コース	32,700 円
	陶芸コース	55,500 円		陶芸コース	58,200 円
地域活動専攻科		15,400 円	地域活動専攻科		16,100 円

※消費税8%を含む

【現状と課題】

生涯大学の授業料については、各学部・学科の性格や学習内容等を考慮し、健康・生活学部及び地域活動専攻科については年額15,400円以内、造形学部園芸コースは年額27,700円以内、陶芸コースは年額55,500円以内としており、材料費等の実費負担を考慮しても、他県と比較し、格安な授業料となっています。

【今後の方向性】

今回のマスタープランでの見直し後の定員や、引き続き最適な学習環境を提供していくための施設維持費を勘案し、「地域活動の担い手育成」を主眼としている健康・生活学部及び地域活動専攻科については年額16,100円以内（700円増）とします。また、陶芸コースについては、年額58,200円（2,700円増）以内とします。

なお、園芸コースについては上記の考え方に加え、より専門性の高い授業や地域での実践活動をカリキュラムに組み込み学習環境の向上を図ることを考慮し、年額32,700円以内（5,000円増）とします。

(4) 入学年齢について

- ◆ 入学可能年齢は、引き続き「原則として60歳以上」とする。

【現状と課題】

定年年齢の引き上げや定年後も非常勤で就労する高齢者等も多いことや、55歳以上という若い年齢層を前面に出すことで、入学をためらってしまう

高齢者がいるという意見も寄せられ、応募者減少の一因となっていると推察されたことから、平成29年度入学生より入学可能年齢を「原則として60歳以上」に見直したところです。

【今後の方向性】

入学可能年齢については、引き続き「原則として60歳以上」とします。

また、より多くの人材が早い段階から地域デビューのための準備をし、地域活動に参加できるようにするという目的は引き続き継続するため、県が必要と認めた場合に、一定の条件のもと、55歳からの入学も引き続き可能とします。

5. 大学校の運営体制の強化

(1) 卒業生の組織化とコーディネーターの役割強化

- ◆ 卒業生団体の組織化の更なる促進
- ◆ 学生と卒業生の交流や卒業生の地域活動を支援するために配置しているコーディネーターの役割を強化

【現状と課題】

生涯大学校の卒業生組織としては、全学園を対象とした「千葉県生涯大学校卒業生学習会」（平成29年度会員数1,599名）をはじめ、平成29年4月現在で42団体の卒業生団体があり、その大半が地域活動を実施しています。中でも、東葛飾地域では、各市に福祉会が出来ており、それぞれの福祉会で連絡協議会を組織することで、地域活動に広がりが出ています。

これらの活動組織は、地域の清掃、花壇の手入れ、樹木の剪定などの施設管理の支援や自治体が主催する行事の応援、あるいは、小学生の登下校時の保護・誘導、高齢者の見守りなど、さまざまな形で地域活動を行っています。

また、本校卒業生と地域団体が連携・協力をするためには、卒業生同士の交流や情報交換などが必要とされることから、これらのネットワークを強化する役割を持つコーディネーターを配置しています。

これにより、卒業生等からの相談件数、地域活動情報の収集、卒業生等と地域団体との連携・協力などについては、年々取り扱い件数が伸びています。

一方で、園芸コースの2年制化に伴い、実践的な学習を実現するための実習先や卒業生の地域活動先の開拓、また、陶芸コースの卒業生の新たな活躍の場の開拓などの役割も求められています。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、全ての学園で卒業生の組織化がさらに促進されるよう、新たな組織の立ち上げを支援していきます。

また、コーディネーターの役割について強化することとし、自治会や地域で活動するNPOと協働して地域の実情にあった課題をきめ細かく把握するとともに、学生の実習先や卒業生の地域活動先の更なる開拓、地域活動に有効な資格・研修会の情報を収集・提供を行います。

また、活動を円滑に行うため、コーディネーターへの研修や情報交換の場を通して、コーディネーター相互の連携・協力体制を充実するとともに、社会福祉協議会ボランティアセンターのコーディネーターや地域で活動するNPO団体等とも連携し、長期的なネットワークの構築を目指していきます。

その際、必要であれば、卒業生情報を市町村や社会福祉協議会、NPO等の地域活動組織に提供することとします。

なお、卒業生に関する個人情報の提供は、本人の承諾を得て、厳格なルールの下で取り扱います。

(2) 市町村等との連携強化

- ◆ 市町村・地元自治会・社会福祉協議会との連携強化
- ◆ 卒業生情報等の共有による卒業生の活躍の場の開拓
- ◆ 地域特性を生かしたカリキュラムの作成

【現状と課題】

学んだことを地域で生かすためには、卒業後の居住地における「活動の場や機会の提供、創造」が求められます。卒業生の多様な活動の場と機会を提供するためには、地域との連携が不可欠です。

しかしながら、市町村に対して行った調査では、「生涯大学校と連携したいが方法が分からない。」「卒業生を活用したいが、卒業生の情報がない。」等の意見が多くありました。また、卒業生の中には、地元市町村で精力的に地域活動に参加している者が数多くいるにもかかわらず、生涯大学校と市町村の間で情報交換が密に行われていないため、卒業生の活動が認知されていない状況があります。このことは、生涯大学校自体の認知度が向上しない要因の一つとなっています。

【今後の方向性】

これらの状況を改善するため、引き続き、各学園に設置する卒業生組織の事務局を通して、市町村のみならず、地域の実情を把握している地元自治会や社会福祉協議会ボランティアセンター等との連携の強化に積極的に努めるとともに、地域の特性を活かした講座の実施を通して地域とのつながりを強化していきます。

《連携の具体的な形》

- ① 県と生涯大学校の各学園及び学園の管轄範囲の市町村等が広く連携し、情報共有が図れるよう、運営協議会を設置し、定期的に会合を開催していくこととします。
- ② 卒業生の組織を市町村ごとにグループ化し、市町村への情報提供などを通じて、各グループがそれぞれの地域で積極的に活動できるよう後押しします。
- ③ 市町村ごとの課題や地域特性を勘案したカリキュラムを学園ごとに作成・展開し、卒業生が居住する地域での円滑な活動参加につなげます。
- ④ 卒業生で組織する団体では卒業生名簿と活動者名簿を作成し、必要に応じて市町村等に情報提供します（個人情報取扱ルールを遵守）。また、市町村等からボランティア活動などを必要とする施設や個人の希望などを集めて提供するなど、互いに情報交換することで連携を図っていきます。
- ⑤ 将来的には、各グループが主体的に自治体や公民館、社会福祉協議会などを訪問し、地域の実態やボランティア活動のニーズなどについて聞き取り調査を行うなどして積極的に地域活動へ参画していくことも展望しています。

（３）大学等教育研究機関との連携

- ◆ 県内にある大学等の教育研究機関との連携強化
- ◆ 大学の公開講座の活用や講師派遣の依頼等による、講座やカリキュラムの質の向上

【現状と課題】

高齢者を取り巻く環境の変化により、高齢者自身の意識や行動が多様化し、生涯大学校へ求めるニーズも多種多様となっています。これらのニーズに応えるためには、幅広い分野にわたる質の高いカリキュラムの提供が必要であり、講師の派遣などにおいても、県内大学等との連携が求められてきています。

自治体運営の高齢者等を対象とした生涯学習事業においては、地元の大学や放送大学との連携講座を設けているケースが多くみられます。連携の形も、地元で立地する大学から講師を招くことや、大学の公開講座への参加を生涯学習講座の単位（出席数）に含めている事例、大学の学生と生涯学習講座の学生が同じ研究テーマと一緒に活動を実践する事例など多様になっています。

【今後の方向性】

学生に質の高いカリキュラムを提供するため、今後は、連携する大学の特性や状況を踏まえた講師の派遣や、大学生等との世代間交流の実施、公開講座への参加など多様な連携方策を取り入れることとします。

また、県には、様々な分野の教育研究機関があることから、専門性と地域性を兼ね備えた多彩な研究分野から講師を招くなど、連携を深めていきます。

さらに、少子化の影響で、高齢者向けの講座を開設している大学等も増加傾向にあることから、互いにメリットのある形での連携を進めます。

《連携の具体的な形》

- ① 県内には、千葉大学を始めとする国立大学や私立大学、放送大学など多数が立地しており、これらの大学を通じた多彩な講師の派遣を引き続き推進します。
- ② 大学の公開講座の活用など、学園外へ出向いた学習の場を設け、活動範囲を広げます。
- ③ テーマによっては大学生と生涯大学校の学生が同じ空間で学習したりボランティア活動をする機会を設けます。生涯大学校の学生だけでなく大学生にとっても、異世代交流による新鮮な経験が得られるというメリットがあります。

(4) 資格取得の支援

- ◆ 学生を資格取得に導く基礎的学習を実施
- ◆ 各種資格や検定等についての情報を収集・提供

【現状と課題】

これまで講座の中に、資格取得を可能にするため、日本赤十字社の救急法講習等をカリキュラムに組み込んだ結果、「地域活動をしていく上で自信につながった」等の意見が数多く寄せられました。

上記の救急法基礎講習だけでなく、生涯大学校の講座の中には、継続して

学習を進めたり、連携する県内大学の公開講座を受講することで、公的な資格取得につながる可能性のあるものが多数あります。

地域で活動を行う上で強みになったり、学習の目標となるような検定や認定資格なども多く存在します。

【今後の方向性】

これらを踏まえ、引き続き、学生を資格取得へ導くため、資格に関する概要や導入部分をカリキュラムに取り入れた基礎的な学習を実施したり、連携大学の公開講座や市町村で実施する研修の情報を提供するなど、資格取得に対する意欲が高まるよう工夫・配慮します。

また、各種資格やご当地検定などについて、生涯大学校で情報を収集し、必要とする学生に提供していきます。これにより生涯大学校での学習を通じて、さらに幅広い学習意欲や地域活動意欲の醸成にもつなげていきます。

《具体的な資格・検定例》

資格・検定名	認位団体	概要
認知症サポーター	地域ケア政策ネットワーク 全国キャラバンメイト連絡協議会	認知症に関する知識を身に付け、地域の認知症高齢者等をサポートします。
赤十字救急法基礎講習修了者 (AED講習)	日本赤十字社 千葉県支部	手当の基本、人工呼吸・胸骨圧迫の方法、AED（自動体外式除細動器）の使用法、気道異物除去の方法などを学びます。
赤十字健康生活支援講習支援員		高齢者の介護の方法のほか、生活習慣病の予防、高齢期を迎える前からの健康管理の方法、地域での高齢者支援などを学びます。
赤十字幼児安全法支援員		子どもの成長と発達、起こりやすい事故の予防と手当、病気の看病のしかたについて学びます。

(5) 地域との交流の促進

- ◆ 地域の大学生等と共に行う授業や協働ボランティアの実施を通じた世代間交流の実現
- ◆ 地域イベントへの学園としての参画
- ◆ 公開講座や体験教室などの開催を通じた地域の集いの場としての役割

【現状と課題】

地域との交流については、オープンキャンパスの実施や地域イベント等への参画、地域の施設等での活動を通して、広がりが出てきました。

しかしながら、地域の方が気軽に生涯大学校に足を運んだり、日常的に学生と交流したりという点では、まだ充分とはいえず、生涯大学校の知名度も決して高いとは言えない状況があります。

【今後の方向性】

地域との交流を促進するため、地域の社会福祉施設等における、入所者に対するレクリエーションや車イス清掃、陶芸教室などの活動や、公園や公共施設等における花壇整備などの活動を継続して実施していくとともに、オープンキャンパスや体験教室の開催を通じて、引き続き、地域に根差した学校となるよう努めていきます。

また、地元自治会や老人クラブをはじめ、社会福祉協議会、農業協同組合、漁業協同組合、商工会議所等とも連携し、市民まつりやマラソン大会をはじめとした地域イベント等に学生がボランティアとして参加することを応援していくとともに、親子陶芸教室の開催や若い学生とともに行う海岸清掃などの取り組みを通じて、世代間交流を進めていきます。

さらに、これまでの活動に加え、学生が育てた花や野菜の即売会の開催、親子で気軽に参加できる地域の伝統技能や伝統料理の教室の開催などを通して、学生が学んだ内容を地域で活かす場とするとともに、子どもたちを含めた地域の方が気軽に集える場となるよう目指していきます。

(6) その他運営体制の強化

- ◆ 指定管理者制度の有効活用と施設の効率的活用
- ◆ 活動団体との連携強化
- ◆ 学生等の地域活動情報の発信や情報収集の強化
- ◆ 退学等の原因分析と有効な意見等はすぐに運営に反映する仕組みづくり

【現状と課題】

指定管理者には、施設の適正管理だけでなく、地域活動の担い手育成を目的とした魅力的な講座を企画・展開していくことや、学生募集にあたっての広報の充実、卒業生等の地域活動情報の発信など、生涯大学校の存在意義を周知し、運営を安定させるため、入学者の確保対策が求められます。

そのため、このようなソフト面においてノウハウを持った事業者による運営が期待されます。

また、定員充足率を向上させるため、学生から定期的に意見を徴し、有効な意見はすぐに運営に反映する仕組みづくりも大切です。

さらに、再入学者が増加している現状がありますが、県の公の施設という観点から、より広く県民に利用していただく工夫が必要となっています。

【今後の方向性】

生涯大学校の運営に当たっては、県・生涯大学校の事務局や各学園・学生等との意見交換の場を設け、より効果的・効率的な運営を図ることができるようにします。

さらに、入学者確保対策として、中途入学制度の導入や、より多くの方に利用を広げるため、同一学部同一コースへの再入学制度を原則として行わないこととします。ただし、健康・生活学部において、学習内容の見直しが行われた場合など地域活動に寄与すると認められる場合は再入学を許可することとします。

施設を効果的・効率的に活用するという観点から、空き時間については、施設を地域に開放したり、指定管理者自ら自主講座を開設するなどして有効に活用することとします。

また、今後も卒業生の組織化を促進し、地域活動を進めていくため、それらの活動拠点として活用していくものとします。

卒業後、地域活動を行っていくためには、在学期間に、実際に活動している団体などと交流し、ネットワークを構築することが必要です。在学中にボランティア活動などの地域活動に触れ、地域活動団体との関係性を作り上げることを目指していきます。その中で、ネットワークづくりのノウハウを身に付けるだけでなく、地域活動への参加意欲を高めることができます。

卒業生の地域活動情報の発信やホームページ、SNSを利用した学校の様子の発信など、入学希望者に向け、広報の充実に力を入れていきます。

6. マスタープランの検証・検討

今回の見直し後においても、マスタープランに沿った運営が着実に行われているかどうかについて進捗状況を確認してその効果を検証し、効果的・効率的な運営を図ることが重要です。

このため、平成28年7月に決定された「公の施設の見直し方針」を踏まえながら、積極的な地域活動の促進、卒業生の地域活動状況、民間の生涯学習事業の展開状況、市町村の人材育成状況など、県が果たすべき役割という視点から、引き続き検証・検討を行っていきます。

《参考：各学部の学習内容（案）》

学部 コース	目的・備考	修業年限	学園	主な学習内容
健康・生活 学部	健康維持の大切さや地域での助け合い等に関する知識や技術について学び、ボランティア、自治会活動など自発的な社会参加に役立っています。	週1回 2年間	京葉 東葛飾	《健康づくり》 ※全員 認知症予防のための食生活・健康づくりの基礎知識、グランドゴルフなどスポーツ実習 《社会参加に役立つ学習》 (両コース共通)調理、地域の伝統技能・歴史、外国人とのコミュニケーション能力向上、パソコン実習 少子化・孤立死など現代の課題をテーマとした学習、施設等への見学・体験 (健康福祉コース)傾聴、手話、視覚障害者ガイドヘルプ、介護・保育に関する演習 (社会生活コース)安心・安全なまちづくり、NPO・社協・自治会の活動、災害ボランティア演習 《資格取得につながる講座》 健康生活支援講習・救急法基礎講習による知識・技術の習得／認知症サポーター 学童保育支援員／介護サポーター など ※その他、教養科目があります。
			東総 外房 南房	《健康づくり》 ※全員 認知症予防のための食生活・健康づくりの基礎知識、グランドゴルフなどスポーツ実習 《社会参加に役立つ学習》 傾聴、手話、視覚障害者ガイドヘルプ、介護・保育の演習、施設等への見学・体験、パソコン実習 安心・安全なまちづくり、NPO・社協・自治会の活動、災害ボランティア演習、調理、地域の伝統技能・歴史 外国人とのコミュニケーション能力向上、少子化・孤独死など現代の課題をテーマとした学習 《資格取得につながる講座》 健康生活支援講習・救急法基礎講習による知識・技術の習得／認知症サポーター、学童保育支援員 介護サポーター など ※その他、教養科目があります。

コース等	目的・備考	修業年限	主な学習内容
造形学部 園芸まちづくりコース	園芸の知識や技術を習得し、学習成果を自発的な地域活動に活かします。	週1回 2年間	《園芸に関する基礎的な知識・技術の習得、応用》 植物・土壌・肥料・病害虫・草花・野菜・果樹・盆栽・山野草の栽培管理 《園芸に関する実習》 花・野菜・庭木・盆栽等の種蒔・植え替え・整枝剪定、 景観を意識した植え込み、施設や公園等における花壇管理(実習)等 ※その他、健康・生活学部に基づき、健康づくりや地域活動に関する講座などがあります。

コース等	目的・備考	修業年限	主な学習内容
造形学部 陶芸 コース	陶芸の知識や技術を習得し、学習成果を自発的な地域活動に活かします。	週2回 1年間	《陶芸に関する基礎的な知識・技術の習得》 陶磁器の歴史・種類・原料、粘土の扱い方、釉薬の組成と種類等、楽茶碗の制作、ひもづみによる 花器・ロクロによる鉢の成型等 《陶芸に関する実習》 土練、成形、素焼き・絵付け・釉かけ・窯詰め・焼成等 ※その他、健康・生活学部に基づき、健康づくりや地域活動に関する講座などがあります。

コース等	目的・備考	修業年限	学園	主な学習内容
地域活動 専攻科	ボランティア活動や地域イベント等の企画・立案や、地域のリーダーとして様々な活動を牽引するため知識やノウハウの習得を目指します。	週1回 1年間	京葉 東葛飾	芸術療法入門などの教養科目のほか、地域リーダー養成に資する講座、団体の設立方法、起業に役立つ「ソーシャルビジネス」などについて学びます。 ※健康・生活学部(地域活動学部)の卒業生が対象となります。 ※その他、健康づくりに関する講座などがあります。

《参考：千葉県生涯大学校 イメージ図》

